

会 議 録 要 約

会議の名称	令和８年度第１回八尾市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
開催日時	令和８年７月１７日（金）午前１０時～午前１１時３０分
案件	議事 ・第１０期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の策定について
出席者	委員１５名（欠席委員２名）

第１０期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の策定について	
事務局	資料１について説明
委員	・保健センター（健康推進課）の地域担当保健師と話し、いろいろな取り組みは進めているが、その成果がどう表れているか見えない。 ・地域住民の意識が薄いので、参加者が少ない。
事務局	・日頃様々な地域活動の中で健康づくりの取組を行い、身近なところで参加できるようご協力いただき感謝する。例えば、地域で行う防災訓練等の中で食を通じた健康づくり等、健康だけを取り上げるのではなく、いろいろな行事の中で健康づくりの機会を意識して取り入れていただいている。 ・取組の成果が直ちに見えにくいところは、課題と感じている。普及啓発を日々進めていくことが重要と考えている。
委員	・地域の高齢者はかかりつけ医を持っているので、なかなか数字に表れないと思う。特定の年代にスポットをあてて伝えていくほうが良いのではないか。 ・会社勤めの方は会社で健康診断を受けるが、そうではない個人商店や主婦の方が受けていない現状が見えている。若い世代、子育て世代の全てが会社に勤めているわけではない。全体に投げかけても、数字にはあがってこない。スポットをあてた施策を打ち出したほうが良いのではないか。
会長	・事務局から健康寿命についての話もあった。また、計画の中にも介護予防がある。特に会社では健康診断が法律で定められているが、そうではない方、国民健康保険や介護保険料のマクロの部分に返ってくることと個々人の健康もある。そういうことに対する施策や取組について、何かあるか。
事務局	・健康診断は社会保険・国民健康保険等に関わらず、いろいろなところで受けてもらえるよう取組を進めている。高齢介護課や保健所等と横の連携をとったプロジェクトチームを作り、健康診断ガイドブックを作成している。 ・また、かかりつけ医から健康診断の受診を勧奨してもらえるよう、八尾市医師会にもご協力をいただきながら進めている。 ・成果が見えにくい点では、保健所に健康まちづくり科学センターができており、医療・介護・健診のデータを小学校区ごとに分析している。最新の令和５年度分がホームページ等にも出ている。この後３年ごとにデータを更新し、地域の取組の進捗状況を地域住民と共有しながら次の取組に進めていく。そういうところで成果を確認いただけたと考えている。

委員	・資料29ページ「③地域における見守り体制の強化」に「要介護認定者等の災害時の避難行動要支援者について、地域団体、社会福祉施設、介護サービス事業所等と連携した支援体制を構築し、避難支援の実効性を高める必要があります。」とある。災害時の要配慮者リストを行政から一部の地区が受け取っている。全地区が受領していないこともあり、対策が進んでいる地区と進んでいない地区にわかれている。 ・八尾市では、校区まちづくり協議会・地域団体・関係機関と情報を共有し、地域と連携した要配慮支援における共助の体制を図っている。しかし、まちづくり協議会の要配慮者支援体制づくりは、どれだけ進んでいるのかわからない。 ・民生委員児童委員協議会として、独り暮らし高齢者の見守りと同様に、災害時に備えて平時からの声掛けや支援を必要とする人の把握、見守り活動の取組を進めていきたいと考えている。 ・全地区がリストを受け取り、民生委員の役割として日常の緩やかな見守り、体制づくりの参考資料として活用することを考えている。 ・私の地区では、委員34名、新任委員が10名いる。災害時要配慮者支援という言葉は初めて聞く委員もいる。7月の定例会の前に地域共生推進課から説明に来ていただいた。 ・リストを渡しっぱなしでは、進まない。リストにある方の住まいを地図で確認した。要配慮者を把握することだけでも、一歩進むと思う。 ・近隣関係を復活させることを目的とし、その上でまちづくり協議会と対策を進めていきたい。
事務局	・リストについては、災害時に加えて平常時の声掛けや見守りを通じた地域の繋がりに使用できると考え、現在、民生委員児童委員協議会の16地区のうち6地区に受け取ってもらっている。 ・地区防災計画はまちづくり協議会が中心となり、各小学校区単位で策定されており、市内28小学校区のうち、策定済みは9小学校区になる。安否確認、避難経路、避難所運営の3本柱を基本とする地区防災計画を策定する中で、災害時要配慮者を含めて地区防災計画を進めるまちづくり協議会において、現在3校区に災害時要配慮者の個別避難計画と同意者リストを渡している。
委員	・まちづくり協議会と連携しながら進めていくとなっているが、一部地域でまちづくり協議会が解散した。 ・一部地域では、まちづくり協議会の構成団体から地区の民生委員児童委員協議会が抜けると聞いた。八尾市民生委員児童委員協議会としては、同じ方向と理念の下で進んでいきたい。
会長	・地域差をサポートするものは、何かあるのか。
事務局	・土砂災害警戒区域は、まちづくり協議会に個別避難計画を受け取っていただいている。 ・要配慮者を地域で把握することで、より見守り活動が進むと考えており、民生委員へのリストの提供を進めているところになる。
委員	・薬剤師会の活動について。薬局では高齢者が増えた為、飲み忘れ防止の為の一包化、特に高齢者は複数の医療機関を受診するので、多剤併用に伴う副作用のチェックを重点的に実施している。 ・通院が困難な患者は、在宅に訪問して住み慣れた自宅で療養生活を行ってもらえるよう、支援している。 ・日本老年医学会が高齢者の為の安全な薬物治療ガイドラインを発行している。薬剤師会でもそれを活用し、高齢者も安心して飲める薬物療法の提供に努めている。 ・認知症の患者も、かなり増えてきていると感じる。認知症サポーター養成講座の受講を薬剤師会でも会員に勧めている。 ・アドバンスケアプランニング（人生会議）の一助となるように、講義の受講も勧めている。 ・患者一人ひとりの価値観や人生観を尊重した最後の意思決定に寄り添えるように努めたい。 ・核家族化が八尾市でも進行している。これまで自分で通院していた方が来られなくなり、従来ならご家族が付き添っていたのが難しくなっている。そういう中で有料老人ホームに入る方が増えている。 ・施設入所後も、同じ薬局からサービスを受けられる繋がりが大事と思っている。医療機関・施設との情報共有の枠組み・仕組みづくりが今後の課題と感じている。
会長	・医療介護の連携の中に、薬剤の連携も入れてもらいたい。

事務局	・ポリファーマシー、複数の医療機関で複数の医薬品を処方されることで副作用が出ることについて、保健所では啓発事業の実施、お薬手帳の普及等の取組をしている。 ・八尾市だけでなく、大阪府・大阪府下の保健所と連携し、イベントで小さい子どもから高齢者までお薬の適正利用を呼びかけている。 ・市役所本庁舎、保健所内のデジタルサイネージにおいて、お薬手帳・かかりつけ薬剤師・薬局の普及について適宜情報提供を行っている。今後も市民にわかりやすい情報提供を行っていききたい。
委員	・資料30ページ（3）「健康づくりと介護予防の推進」の「②疾病予防と重症化予防の推進」に「八尾市医師会と連携して「かかりつけ医からの受診勧奨」」、「健診受診勧奨チラシ」とあるが、これは開業している先生に配布しているものか。
事務局	・昨年、八尾市医師会の会員に全て配布している。
委員	・医師会に入っている各医院には必ず配布しているのか。
事務局	・全会員に配布している。
委員	・後期高齢者の歯科健康診査を75歳以上の各家庭に封書で送っているが、ご存知か。 ・各医療機関でフレイルとよく聞くと、歯科でも飲み込む力や舌の力が衰えてくると誤嚥性肺炎を起こしやすくなる為、検査をしてアドバイスしている。積極的に受診していただきたい。 ・在宅訪問歯科診療は、ずっと通院してくれている患者さんの自宅に、我々歯科医師が出向いていくのが一番良いが、医療機関も高齢化している。在宅訪問診療は大変で、実施していない歯科医師が多い。 ・歯科医師会事務局に電話してもらえると、在宅歯科医療を実施している診療所を紹介することができるので、積極的に活用してもらいたい。 ・歯科医師会としては、各施設や医真会の看護師・医師に飲み込む力についての講演を行い、各病院・施設のスタッフの方々に理解してもらえるように活動している。講演等のご要望等があれば、歯科医師会に連絡いただきたい。 ・歯科医師会も在宅介護に力を入れていきたいと思っている。
委員	・10数年前から高齢者のカフェをしている。悩みを抱えたり、孤独になったりしている方が増えてきた。悩みを持つ方には、答えを出してくれる人を紹介している。 ・カフェ等の関わりの中で、10人ほど認知症の方を見つけて、家族へ連絡した。同居していても、少しの変化はわかりにくい。我々は変化に気付くことが多い。 ・今は自宅でカフェを実施しているが、高齢者だけでなくいろいろな人に出入りしてもらえるようにしている。経営もお手伝いも高齢者がしている。 ・最終的に、おくりびととしておくれた経験もある。しばらく来られないと思い、訪ねたら亡くなっていた経験が3件ほどあった。 ・地域の高齢者は居場所を求めている。暑い中でも涼しいアリオ八尾へ行く高齢者は多い。認知症カフェ等の地域の居場所がたくさんできれば良い。
会長	・認知症カフェはあるが、認知症でなくても高齢者の居場所としてカフェをされているとのことで、非常に良い取組だと思う。 ・子ども食堂が地域の子どもの居場所で、そこに高齢者も来る。多世代の居場所になっているという卒論を書いているゼミの学生が毎年いる。 ・地域での居場所づくりの取組について、行政での支援・サポートはあるか。
事務局	・認知症カフェ、高齢者のふれあい喫茶等の居場所づくりを進めている。 ・オレンジカフェはかなり進んでおり、今年度13か所、高齢者のふれあい喫茶は8か所設置している。 ・認知症カフェには、認知症地域支援推進員がいる。例えばグループホームや介護保険の事業所だけでなく、いろいろなところでカフェを進めていくことができないかと思い、地域を回っている。少しずつだが、増えている。 ・認知症高齢者に入っていただき、家族、支援者、地域の方々も参画しながらカフェでお話することも進めている。 ・スターボックスで認知症カフェを実施し、大変好評だった。そういった新たな居場所の開拓・立ち上げについても、市としてバックアップしている。

委員	・家族介護者の現場の声で一番困っているのが、介護難民の問題である。介護人材がいらないから介護できないという問題が提起されている。最近非常に増えた。 ・デイサービスの送迎、重度の方の訪問介護、特に要支援１・２の軽度の方が断られる率が高い。本人は支援を受けて良くなってきているのに、逆戻りしている。 ・介護難民でヘルパーもいない。介護を受けている身では一番困ることなので、市としてどのような対策を考えているのか教えてほしい。
事務局	・介護保険だけでなく障害分野も同様だが、介護人材は全国的に不足している。 ・介護事業所向けアンケートを取ったので結果を分析して、今後施策として打ち出していきたい。一方で、数は足りていても一人ひとりの支援に繋がっていないケースもある。総論的に見る部分と、各論的に見る部分を分析して把握していく必要がある。 ・介護人材の不足は、国の流れとしても都道府県事業としてプラットフォームを作り、しっかり支援していく方向性が打ち出されつつある。八尾市だけで解消できる問題ではないが、都道府県事業とも連携しながら進めたい。 ・現状不足している部分、一方で過剰サービスになっている部分もあると思う。そのあたりの分析をできる限り行い、次回お示ししたい。
委員	・私も介護者の会をしながら20年間妻の重度障害の介護をした後、認知症の方の相談を受けている。相談は非常に多い。昨年は、１年間で8名いた。 ・個人で経営しているホームカフェに、１年間で70名以上の方が来られている。いろいろな方が相談に来る。自作のケーキと一緒に食べて相談に乗り、その都度必要な部署に繋いでいる。 ・介護だけでなく障害のガイドヘルパーがいない。介護業界は熱中症対策をほとんどしていない。命に関わる仕事なのに、対策されていないことを一番心配している。 ・個人の居場所づくりを、もっと広げてほしい。細かな、肝心な、初歩的なことを、我々が一番よくわかっていると思う。それを次に繋げてほしい。
委員	・フレイル予防のカフェを４月から始めた。来てくださっている皆さんに得意なことをしてもらおう等、どうすれば良いか皆で相談しながら決めていく。 ・軽度認知症程度で、しっかりものが言える方が多い。 ・フレイル予防のカフェ３回目だが、20人以上集まっている。医療から熱中症の講座をお願いしたいと言えば、来てくれるか。
委員	・歯科医師会では、口腔フレイルについてご要望があれば対応する。
委員	・今度は防犯で詐欺についての話をしに来てもらう。 ・社会福祉協議会のボランティア登録をしている。その中で年に何回かフレイル教室を開いている。 ・認知症で施設に入る方もいるが、高齢者が高齢者を支えるボランティアがある。後期高齢者のボランティアがとても多い。長年にわたりボランティア活動をされていて、緑綬褒章をもらったグループもある。 ・視覚障害者や聴覚障害者の当事者・支援者によるボランティア、手話サークルや要約筆記等いろいろある。 ・社会福祉協議会のボランティア体験プログラムがある。ボランティアが集まるイベント「ふれあいまつり」の中で体験コーナーがあり、去年から親子で参加してくれる方が増えた。
副会長	・高齢者カフェ、認知症カフェ等、様々な居場所、住民主体の通いの場が豊富にあることを理解した。 ・認知機能が低下しているMCI（軽度認知障害）の方への対応に苦慮されていると理解した。 ・早期に受診して、必要であれば服薬もあると思う。大きな解決策としては、人との関わりを続けることと運動を続けることが重要だが、その為にはご本人、ご家族、周囲の協力と理解が必須だと思う。そういう啓発も今後の計画に入れてほしい。 ・災害時の要配慮者支援と、要介護認定者とかぶっている場合があると思う。介護事業所でBCP（事業継続計画）を立てていくことが国としてもあがっていた。災害や感染症があった時、各介護事業所が事業を運営しながら、優先順位をつけつつ地域の要介護認定者等に対応する。そういう仕組みづくりについても、計画で触れられると良い。
今後のスケジュールについて	

事務局	今後のスケジュールについて報告
-----	-----------------